

第47回全国総会の報告

守る会岡山県本部

60年記念行事「親の想いを受け継いで」のお礼

昨年、10月26日(日)岡山市中央公民館で実施した「60年記念行事：親の想いを受け継いで」へは、全国本部から交通費の援助をいただき、県外からも多くの被害者の皆さんに参加していただきました。また、救済対策委員の先生方・相談員の先生方・行政の方々など、多くの人達に支えられ、事件の風化防止と今後の被害者救済活動について意義ある記念行事を行うことができました。「ありがとうございました。」

救済事業協力員の皆さんには、昨年10月上旬に再度参加よびかけを行っていただきました。そして、菅野委員長のリーダーシップのもと、実行委員会のメンバー同士協力し、支え合いながら過ごした1年間は貴重な経験でした。これをきっかけに、守る会活動、健康を守るネットワーク活動がもっと、もっと盛んになればいいなあと思います。

全国本部回答 平松事務局長

昨年10月、岡山県本部主催で開催された60年記念行事は、全国的にも大きな関心を呼び、都府県本部の垣根を越えて研修・交流する交通費の援助がかつてなく多い、9県13名となりました。開催当日は、多くの行政関係者や専門家が出席され、守る会発症の地の県本部として極めて重要な活動をされたと考えます。全国本部としては、今回60年記念行事の成果を、運動方針案の最後にある60周年記念冊子の発行、9月に開催予定の合同慰霊祭・記念式典の充実につなげたいと考えます。

平成26年度終了予定の障害者総合支援法に基づく「サービス等利用計画」の作成の進捗状況について

岡山県では、コーディネーターを各市町村に派遣するなど工夫した取り組みを行っておりますが、サービス等利用計画作成進捗率66.02%と達成しておりません。

伸びない理由は、事業所の数・相談員の数に足りていない事にあると思います。

サービス等利用計画(案)作成に関わる報酬単価のアップも含めて、引き続き、三者会談等で厚生労働省への働きかけをお願いします。

全国本部回答 平松事務局長

行政上の大きな課題であり、サービス等利用計画は、障害者の自立生活を支えるための総合的な支援計画で、専門家のアドバイスも活用して作成され、計画に基づいてきめ細かく継続的な支援が実施される。サービス等利用計画の作成は、障害のある被害者の地域での支援ネットワークづくりで極めて重要な役割を果たしていきます。守る会とひかり協会は事前の打ち合わせを実施し、毎回の三者会談や三者会談救済対策推進委員会で、サービス等利用計画の作成推進を要請してきました。障害者総合支援法施策に係る厚生労働省の予算は十分でなく、計画を作成する相談支援事業所が不足していることもあって、サービス等利用計画対象者全員の作成は容易ではありませんが、今後も三者会談や三者会談救済対策推進委員会で粘り強く要請していきます。

マクロ経済スライド発動に伴う障害のある被害者救済について

少子高齢化や平均寿命の延びなど、年金の財政問題の対策として、公的年金給付を自動的に削減する「マクロ経済スライド」が2015年4月から発動されています。これにより、重い障害のある被害者の障害基礎年金に大きな影響がでる場合には、厚生労働省・ひかり協会に対応策を要請願います。

全国本部回答 平松事務局長

今年4月から年金額決定に、今年はじめてマクロ経済スライドが適用されることになりました。マクロ経済スライドは、若い人達の年金保険料を増やさないようにするために、運動方針案の注釈にも書いてありますが、物価や賃金の上昇より年金額を低くするために制度化されました。今年4月からの年金は、本来なら物価とか賃金の上昇に合わせて引き上げられますが、マクロ経済スライドが適用されるため、年金は0.9%しか引き揚げられないということになりました。守る会は、マクロ経済スライドがこれから以降もずっと適用されると年金が目減りして、障害被害者の生活が成り立たなくなってしまうので、厚生労働省に特別対策を実施してもらうよう今年3月の三者会談救済再策推進委員会で要望しましたが、当面そのような対策はないとの厚生労働省の回答でした。

